

# 教育改革の大きな流れの中で...



香川県教職員連盟機関誌  
発行所：香川県教職員連盟  
発行：安本 薫  
〒760-0004  
高松市西宝町2丁目4番60号  
香川県教育会館602号  
TEL (087) 835-2721  
FAX (087) 835-2723

http://www.kakyoren.com/  
E-mail: info@kakyoren.com  
毎月10日発行 定価1部50円  
(年間1,000円 送料とも)  
会員の購読費は会費の中に含む



香教連は、結成四十四年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力を持つ、県内最大の教職員団体です。

## 「変えていくもの、変えてはいけないもの」教育の本質は何か！

### 志国 高知で不易流行を考える

#### 教育シンポジウム高知開催！



十一月二十四日(土) 九時より、高知県高知市の高知会館において、「変えていくもの、変えてはいけないもの」教育の本質は何か！「志国」高知で不易流行を考える」をテーマに、教育シンポジウム高知が盛大に開催された。香川県教育文化研究所からは北村顕吾専務理事以下十四名が参加した。

続いて行われたシンポジウムではコーディネーターに日本教育文化研究所所長・野原明氏、パネリストに麗澤大学大学院特任教授・高橋史朗氏、筑波大学体育系教授、教育再生実行会議委員、ソウルオリンピック女子柔道銅メダリスト・山口香氏、中土佐町立大野見中学校校長・松井成一氏を迎え、それぞれの立場から熱く語っていただいた。



今を生きる子供たちが激変する社会の中で翻弄されることなく、「志」をもって新しい時代を切り拓き、たくましく生きていくために、教育の本質とは何かのかを「不易流行」という視点から、先生方の御経験・御実践等をもとに具体的なお話をしていただき、教育の本質について深く考える有意義なシンポジウムとなった。

## これからの教育は地域と学校が一体となつて...



十一月十六日(金) 十三時より、レグザムホール(香川県県民ホール)にて、平成三十年度地域とともにある学校づくり推進フォーラム(主催：文部科学省・香川県教育委員会)に、香教連から北村顕吾専務局長が参加した。

はじめに主催者を代表して、工代祐司香川県教育委員会教育長の御挨拶の後、行政説明として西川由香文部科学省総合教育政策局地域学習推進課・地域学校協働活動推進室室長からコミュニティー・スクールの必要性などについて説明があった。

次に、「コミュニティー・スクールの効果的な導入・推進に向けた取組」として、香川県三豊市立仁尾中学校、山口県教育委員会、山口県山口市立湯田中学校の実践発表があった。

続いて、パネルディスカッションが行われた。コーディネーターは、香川大学教職大学院特命教授・野村一夫氏、パネリストとして、香川大学地域連携・生涯学習センター教授・清國祐二氏、山口県教育委員会教育長・藤本孝治氏、香川県三豊市立仁尾中学校校長・丸岡靖明氏、飯山中学校区地域学校協働本部コーディネーター・青井静氏、さぬきおやじ連合代表・早谷川悟氏の六氏で議論が繰り広げられた。地域と学校の連携・協働に向けた効果的な体制づくりや学校運営協議会設置に対する不安・疑問などに関して熱心に議論され、これからの地域と学校の関わり方や在り方などについて考えさせられた、貴重な研修会となった。

## 先生方のライフプランに応じた人事異動となるように...



十月二十日(土)に行った第一回人事対策委員会で今年の人事交渉の日程や会員票等について議論した。先月の香教連新聞に同封し、各学校に「香教連会員票」をお配りした。十一月中旬から十二月上旬にかけて、各単組の評議員会が開催され、事務局専従もできるだけ参加させていただいた。そこで、各学校の評議員の皆さんに会員票についての説明をさせていただいた。「香教連会員票」は、平成三十一年三月の人事異動に向けて、会員の先生方の異動希望等を香川県教育委員会、各教育事務所、各市町教育委員会との人事交渉の際の大切な資料となるものである。

各単組ごとに締切日は異なるが、各校の評議員の先生、もしくは各単組の会長、事務局長、人事対策部長の先生へ必ず御提出いただきたい。



小学校五・六年生を担任した教員が現在大学四年となり、今年度の教員採用選考試験に見事合格した。現在、スクールボランティアとして、本校に週二日勤務し、子供たちと過ごす時間を過ごしている。採用試験を受けた人材が全国的に減少している。香川県においても小学校三・二倍、中学校四・七倍となつており、先日七日には、追加合格者の発表もあつた。▲教員を目指す人材が減少傾向にある原因の一つとして、働き方改革が叫ばれているように、長時間勤務が挙げられるのではないかと、子供たちと向き合い、授業づくりを取り組んだり、悩みに寄り添ったりする間にまだまだ少ないのが現状である▲本来、教員は子供たちの成長を一番近くで見ることができ、その瞬間に立ち会える素晴らしい職業である。多くの人材が、夢と希望を持ってこの素晴らしい職業を目指すことができるように、香教連は働き方改革の推進を要望していき、そして魅力ある教員が、子供たちの前で生き生きと授業していくことが、人材確保の大切な一歩ではないかと思つている。(薫)